

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年3月12日（木）

2 確認箇所

- ・地下水バイパス一時貯留タンクエリア（図1）
- ・瓦礫類一時保管エリアC（図1）

3 確認項目

- （1）地下水バイパスの排水状況
- （2）瓦礫類一時保管エリアCの状況

4 確認結果の概要

（1）地下水バイパスの排水状況

福島第一原子力発電所では、原子炉建屋等に流入する地下水量を低減させるため、地下水バイパスやサブドレン他水処理施設などを設置し、基準を満足した地下水を定期的に海洋へ排水している。

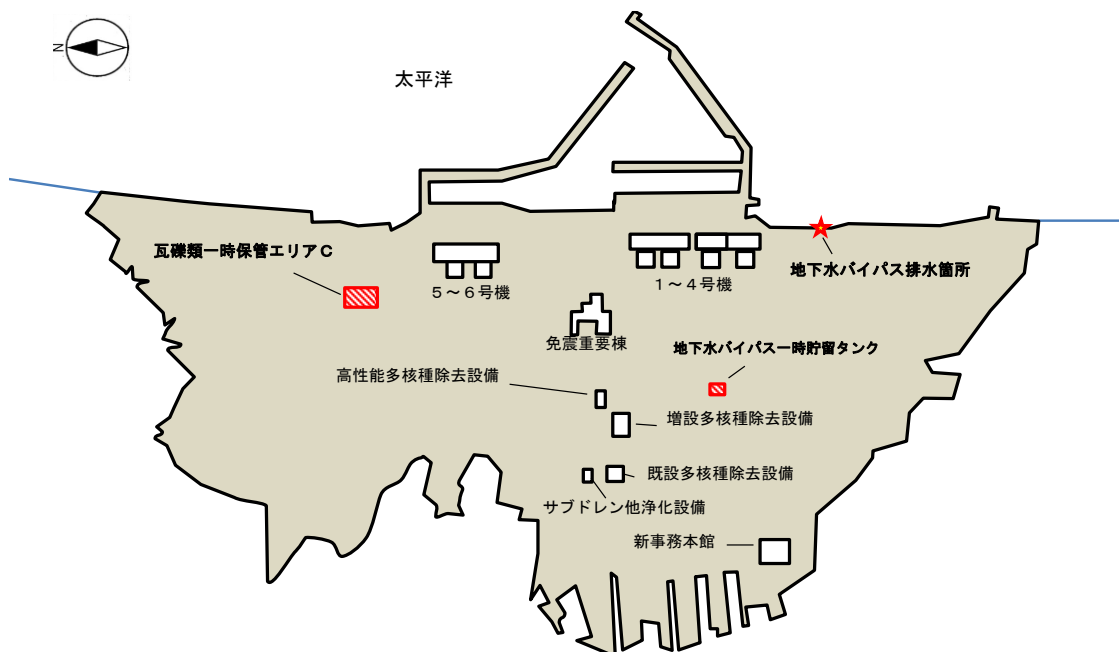
今回は、地下水バイパス一時貯留タンク（グループ2）からの排水が予定されていることから、その状況を確認した。（前回確認：令和7年12月18日）

- ・東京電力の社員が、手順に従い排水のライン構成を行っていた。排水のライン構成については、集中監視室からの指示を受け、現地で呼称指差し確認をしながら実施されていた。また、操作完了後は、手順毎に集中監視室へ報告がなされていた。（写真1）
- ・東京電力の社員が、排水を行うグループ2の排水弁を「全閉」から「全開」にする作業を実施した。（写真2）
- ・集中監視室からの遠隔操作により排水ポンプが起動した。その後、東京電力社員がポンプ起動後の状況、ポンプ及び周囲の配管に異常が無いことを確認していた。また、排水ポンプの定期点検として、ポンプの振動測定等が行われていた。（写真3）
- ・排水開始後、目視の範囲で異常は確認されなかった。また、排水ポンプのモーター部分の異常も確認されなかった。
- ・当日の排水実績は次のとおり。
排水開始時刻：10時13分
排水終了時刻：16時32分
排水量：1,750 m³

(2) 瓦礫類一時保管エリアCの状況

東京電力では、中長期ロードマップの目標工程である「2028年度内までに、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外での保管を解消」を達成するため、屋外で一時保管されている瓦礫類等の固体廃棄物を屋内保管へ移行し、屋外一時保管エリアの解消作業を進めている。本日は、金属等の瓦礫類遮水シートにより養生を施した一時保管エリアである瓦礫類一時保管エリアCの状況について確認するとともに、工事担当者から瓦礫類の取り出しに関する作業の進捗状況等について聴取した。(前回確認：[令和8年1月14日](#))

- ・瓦礫類一時保管エリアCは第1～第4工区に分けられており、このうち第1工区及び第4工区において、瓦礫類の取り出しが進捗していた。(写真4)
- ・現場確認時には、第2工区で瓦礫類の取り出し作業が行われており、重機に付帯したノズルから散水しながら瓦礫類の積み込み作業が行われていた。(写真5)
- ・また、当該エリア内での作業に伴う放射性物質の飛散状況を監視するため、ダストモニタが設置され、作業時のダスト濃度をリアルタイムで連続測定し、設定値を上回る場合には、即時作業を停止する措置が講じられていた。(写真6)
- ・確認した範囲において、遮水シートの損傷や瓦礫類のエリア外への飛散等は認められず、作業環境状態に問題のある箇所は確認されなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1 ①) ライン構成の状況



(写真 1 ②) 集中監視室への報告



(写真2) 排水弁の全開作業



(写真 3) ポンプ起動後の確認



(写真 4)
瓦礫類一時保管エリアCの概観
※右奥：北東部に第2工区、第1工区がある。



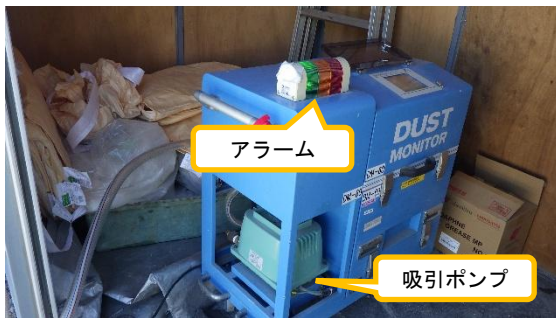
(写真 5)
第2工区における作業状況
※重機に取り付けられたノズルから散水しながら瓦礫類の把持、積み込みが行われている。



(写真6①)

第4工区の状況

※手前側部分は、先行取り出し作業で撤去が進められている。
工区脇にダストモニタ収納用物置が設置されている。



(写真6②)

モニタ収納用物置内部のダストモニタ装置

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。